

平成 27 年 10 月 1 日  
 沖縄県がん診療連携協議会  
 普及啓発部会

## 平成 27 年度 養護教諭 5 年 10 年経験研修

### 概要

開催日時 : 平成 27 年 8 月 18 日 (火) 9:30 ~ 11:30

テーマ : 「がんの総論について」  
 「小児がんについて」  
 「おきなわ小児がん相談支援マニュアルについて」

講師 : 増田 昌人  
 (琉球大学医学部附属病院がんセンター長・診療教授)  
 百名 伸之 先生  
 (琉球大学医学部附属病院骨髄移植センター長)  
 石郷岡 美穂 氏  
 (琉球大学医学部附属病院地域医療部・医療福祉支援センター 主任MSW)

主催 : 沖縄県立総合教育センター  
 共催 : 沖縄県がん診療連携協議会 普及啓発部会  
 琉球大学医学部附属病院がんセンター

場所 : 沖縄県立総合教育センター (沖縄市)

参加者数 : 17 人

### 講演の様子

がん診療機能別	人数
小学校 養護教諭	4 人
中学校 養護教諭	1 人
小中学校 養護教諭	2 人
高等学校 養護教諭	9 人
特別支援学校 養護教諭	1 人
合計	17 人

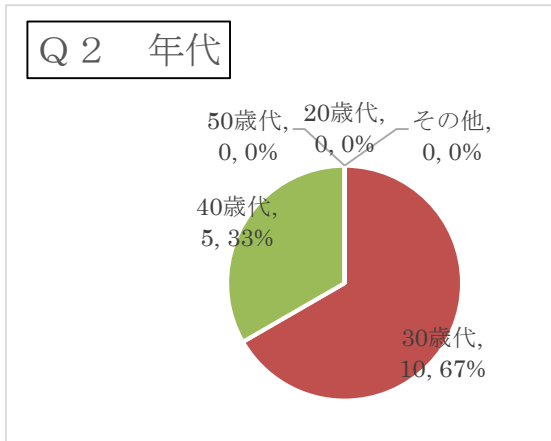




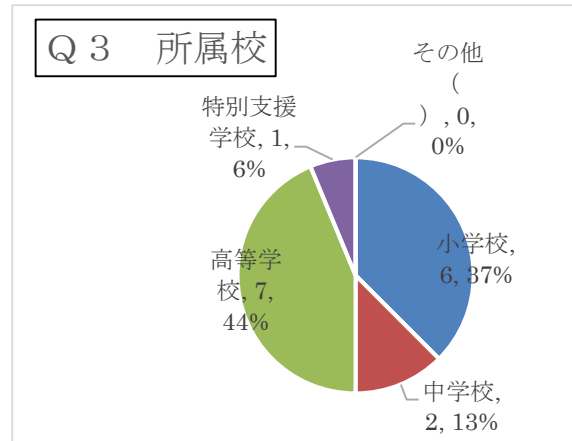
講演のアンケート結果 (回答者 15名)

I. 受講者ご自身について

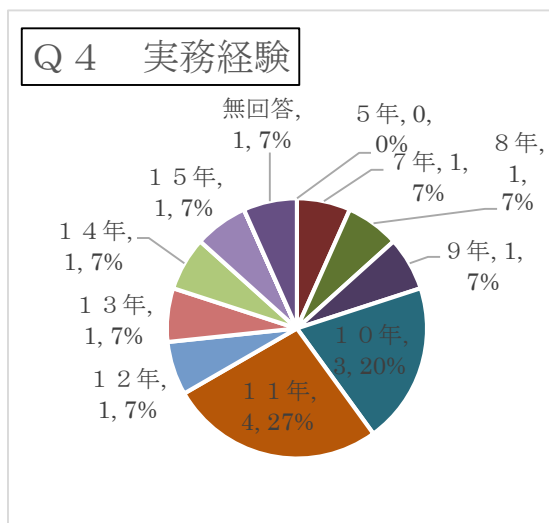
Q 2. 年代について



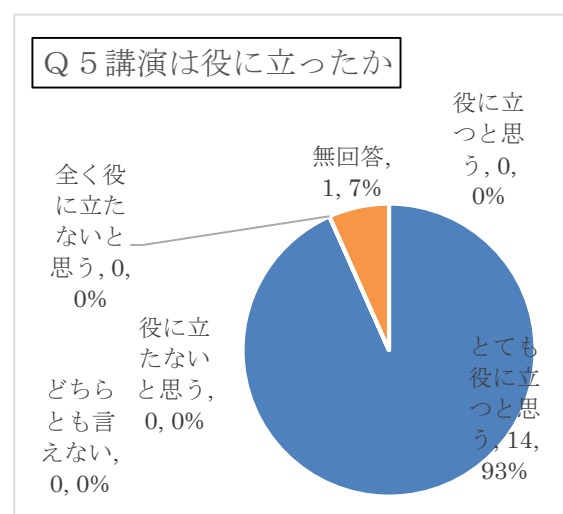
Q 3. 所属する学校について



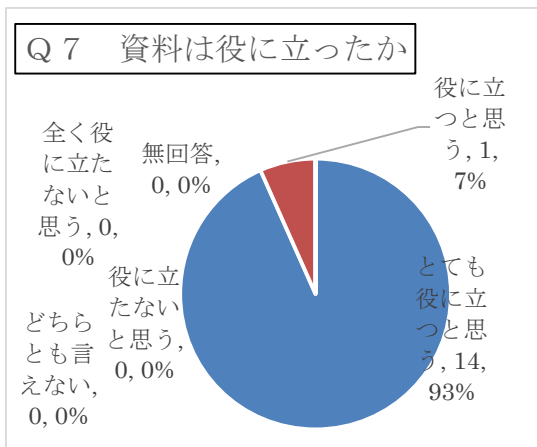
Q 4. 実務経験について



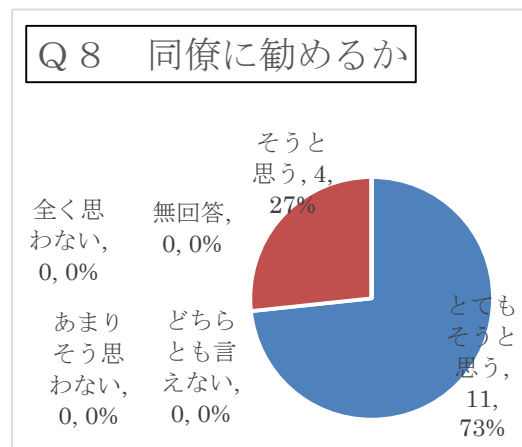
Q 5. 講演について



### Q 7. 資料は役に立ったか?



### Q 8. 同僚に勧めるか



### Q 9. 講演に関するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

- ・盛りだくさんの資料と貴重なご講義ありがとうございました。がんという病気がとても身近だと実感させられました。がん患者はもちろん、がん患者を取り巻く家族も学校としてどのように支援すべきか主治医（病院）との連携を密にし、安心した学校生活をすごさせたいです。
- ・がんについて授業で取り組むイメージが湧かなかったが、全生涯で約2人に1人が診断されること、9割の子が高校卒業までにその家族となることを知って、その必要性が分かった。まずは、職員研修に取り入れるなど、学校ないでの共通理解を図っていきたい。
- ・とても勉強になりました。がんに対する知識が低かったので、もっと自分自身も勉強していくことが必要だと思いました。支援についての施設も知ることができ、今後のがん教育へ繋がっていききたい。
- ・臨床に約6年程いたので、がん患者本人、また家族の苦悩などを直接見聞きする機会は多かった。学校の方でも、過去に親を亡くした生徒がその心の頃について話をしたり、家族ががんになった、などの話を聞くことがあう。今までは聞くだけだったが、今後は適切な助言や情報提供ができるように体制を整えていきたい。
- ・「2人に1人ががんに罹ること」は、聞いていた事でしたが、改めて、衝撃を受けました。身近な病気であるのに、あまり勉強する機会がなかったと感じました。
- ・「がんに対する情報をどこで得るか?」の部分で、今の子どもたちには必要で、有益な情報だと思いました。子どもたちは、インターネットの情報や本から得る情報がすべてだと思うので、間違った情報が流れていることを知らせることと、正しい情報の入手についてが、最も重要な情報だと思いました。
- ・大変勉強になりました。心理的な部分、現状なども学べて良かったです。
- ・貴重なご講話ありがとうございました。高校生の1/2以上ががん患者の家族遺族ということがとても印象的でした。国・県としても、今後「がん教育」への取り組みを学校現場で行っていくことの重要性を痛感しました。本校でも、白血病の児童が寛解して、元気に登校しております。けっして、棚上げしておくべきことではないのだと思いました。これから、もっと知識を深めて、子ども達への教育に活かしていきたいです。
- ・家族にがん患者や遺族がいる子ども達へお支援についてとても勉強になりました。
- ・がんは日本人にとって、とても身近な病気であることを、あらためて認識しました。学校に

において、がん教育はまだ進んでいない現状があるため、積極的に進めていく必要性を感じました。

・HPV ワクチンの件ですが、本件でも、重度のしびれや歩行困難等が出現し、休学して県外での治療となった生徒がいるのでやはり考えてしまいます・・・。

・思い病気の話しで、いろいろと想像して（娘ががんと言われたらどうしよう）など、悲しくなったりもしましたが、すべての情報が新しく、とても勉強になりました。ありがとうございました。

・がんの原因→遺伝ではない、発生率等正確な情報が知れて良かったです。学校で使用できるパンフレットももらえたので、活用していきたいです。

#### Q10. 今後、取り上げてほしいテーマがあれば、教えて下さい。

- ・学校でのがん教育について授業を見たい
- ・実際の授業を体験してみたいです。
- ・ソーシャルワーカーの仕事内容や、学校とどのように繋がるのかなどを教えてください。
- ・がん患者（小児本人）、患者の家族のサポートについて（精神面、社会保障、金銭面）
- ・学校での支援の実際（特支の様子 {病院内外について} )
- ・生活困窮者は、健診へつながりにくい（金額）、受検しやすい環境整備を切に希望します。
- ・実際の授業内容があれば勉強したいです。

#### 所感

実際の学校現場で、保健室の先生として、毎日児童生徒の体調管理や保健指導をされている養護教諭の先生方の研修会であった。実体験にもとづいた多くの質問があった。

- ・退院時カンファレンスについて
- ・がん教育の普及の方法
- ・養護教諭、保健室の先生としての自分自身の患児やきょうだい児へのフォローについて

養護教諭の先生方から現場の声を聞き、がん診療や相談支援に関して、今後は、医師と各学校との連携、医師と養護教諭の先生方との連携、さらに部会としても「がん教育」の学校現場での授業などについて検討、構築していく必要がある。

## がん検診啓発ラジオ放送企画報告書

県民へのがん検診啓発活動として、ROK ラジオ沖縄と沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会がタイアップし、以下の通り実施したので報告する。

➤ がん征圧月間特別企画：ラジオコマーシャルについて

9 月はがん征圧月間であることから、ラジオ沖縄では、9 月 1 日～9 月 30 日の 1 ヶ月間、がん検診の受診を県民へ啓発するラジオコマーシャルを放送した。

協 賛：ROK ラジオ沖縄

➤ がん検診啓発特別ラジオ番組について

制 作：ROK ラジオ沖縄

番組名：「チャットステーションL」

テーマ：「受けよう！うちな～がん検診」

放送日：平成 26 年 9 月 30 日（水）午後 2 時～4 時（120 分）

出演者：パーソナリティー 玉城 美香

ゲスト：赤松 道成（北部地区医師会病院 消化器外科）

島袋 幸代（沖縄県立中部病院 がん相談支援センター副看護師長）

井岡 亜希子（琉球大学医学部附属病院がんセンター 特命助教）

大久保 礼子（琉球大学医学部附属病院がんセンター MSW）

**聴取者メール応募数： 約 200 通**

内 容：聴取者から寄せられる「がん検診」についてのエピソードや、「がん」について気になることをベースに、「がん検診」を受けることの重要性、消化器がんのことについて、拠点病院の相談支援センターの PR 等、専門のゲストを招き解説を行なった。

### がん検診と消化器がんについて

（北部地区医師会病院 消化器外科 赤松 道成 先生）

がん検診と人間ドックは別物で、がん検診としては、消化器では、胃がん（食道がん）検診・大腸がん検診女性では、乳がん検診・子宮がん検診その他では、人間ドックで腹部エコーや CT、腫瘍マーカーなどを個人的に受けていただくことになる。

消化器は、食道～胃袋～小腸～大腸 この消化管に繋がる肝臓・胆のう・膵臓が消化器と呼ばれる。がん検診には、肝臓・胆のうは入っておらず、個人的に人間ドックなどを受けていただかないとわからないものである。また、川島なお美さんの報道もあったが、肝内胆管がんは早期で発見することは難しく、自覚症状も出ないので、定期的に検査をしないと見つからない。

沖縄県民のがんの罹患率は、全国的に見ると低めではある。低めではあるが、決して大丈夫というような罹患率ではないので、出来るだけ早くがん検診を受けてきちんと見つけてほしい。とにかく早期で見つければきちんと治るし、職場復帰、社会復帰が可能である。早期で見つければ大腸の内視鏡(カメラ)で手術しなくて取れるが、どうしても沖縄の方は我慢する方が多く、大腸がんが大きくなり便が通らなくなって腸閉塞になってから来院する方、便がたまりすぎて腸がやぶれてから来院する方がいるのが現状である。大腸がんは初期には症状がない、症状が進むと便に血が混じる、便が細くなる、便秘や下痢になったりするがそれらの症状が出ているとかなりがんが進行している場合が多いので、やはり、がん検診を受けていただきたいと勧めているところである。早期発見のためには、まず検診を受けること、野菜や果物を多くとる、体重を増やし過ぎない、生活習慣を整えることが大事である。

乳がん検診は、触診・マンモグラフィーがあり、授乳中の方や若い方は乳腺が発達しておりマンモグラフィー検査で見分けにくく副乳のある方もマンモグラフィーでは検査しにくいので、人間ドックのエコー検査で詳しく見る検査を受けるとよい。

がん検診で、胃がん(食道がん)検診・大腸がん検診・乳がん検診・子宮がん検診を受けていただき、その他は人間ドックで腹部エコーを受けていただきたい。腹部エコーを受ければ、肝臓がん胆管がんを早期に見つける可能性が高いので、年に1度は受けていただきたいと強く思う。

抗がん剤の副作用とよく言われるが、胃がん・食道がん・肝臓がん・大腸がん・膵臓がんと、がんの種類によって抗がん剤は全く異なり、人によってどんな副作用が出るかもわからない。そのため、たくさんの患者さんに投与された薬で、もっとも効果の可能性が高く副作用が抑えられ一定の効果を保たれる量を吟味して投与するのだが、効果も副作用も患者さんによって出方が全く異なるのが現状である。

乳がんは、胸の大きい人がなりやすいということはない。が、乳がんは女性ホルモンの影響を受け女性ホルモンは脂肪にも含まれるので、体格の良いふくよかな方は脂肪が多く痩せた方よりは、乳がんになりやすいと言える。

がんのリスクは、「2人に1人ががんになる」「3人に1人ががんで死ぬ」ことから、すべての人にがんのリスクがある。遺伝的に大腸がんのポリープのできやすい方、乳がんの一部は遺伝することもあるが、多くのがんは遺伝しないと言える、それよりも、生活習慣を見直すことが大事である。

がんは決して治らない病気ではない、ただし早く見つけないといけない病気であり、早く見つけさえすれば治るので、そのためにもがん検診を受けてほしい。また、気になる症状があるときには、一人で悩まずに遠慮なく病院に来て相談していただいたら、私たちが適切な検査をして見つけるので、ぜひ受診してほしい。

## 沖縄県のがんの現状、がん検診受診率について

(琉球大学医学部附属病院がんセンター 特命助教 井岡 亜希子 先生)

今や、「2人に1人ががんになる」と言われており、半分の確率でがんになるので、「自分のがんにならない」とは、思わない方がよい。幸いにして、私たちがかかりやすいがんというのは、がん検診で早期に見つけることができるので、早めにごがん検診を受けてほしい。

沖縄県民では、男性では大腸がんと肺がん、女性では乳がんと大腸がんが多い傾向にある。遺伝が関係するものは確かにあることはあるが、がん家系というよりも生活習慣、食生活が影響して大腸がんになりやすいということがある。

20代から受けられる検診は、女性の子宮がん検診のみで、それ以外は人間ドックであるが、「40歳からは、

がん年齢」と言われるように、40代からはがん検診を受けてほしい。

がん検診の料金は、市町村によって異なり、無料から数千円になる。がん検診は仲間たちで、周りの知人友人に声をかけて誘い合って受けていただきたい。

胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん検診は40歳から、子宮がん検診は20歳から市町村で提供されているので、是非、この機会を活用してがん検診を受けていただきたい。

### がん相談支援センターの役割

(沖縄県立中部病院がん相談支援センター 副看護師長 島袋 幸代 氏)

(琉球大学医学部附属病院がんセンター MSW 大久保 礼子 氏)

相談で多いのは医療費についてであり、実際にがんと診断されて医療費がどれくらいかかるのか、漠然としてどうしたらいいのかわからないと言って相談に来られる方もいる。色々な不安をお持ちだと思うが、そのような不安を持ったままでいいので、相談してほしい。

がんかもしれない、がんと診断されたときは、患者さんやご家族も色々な心配事や不安が出てくる。その時には、短期間で色々なことを決めないといけない。その時には、「がん相談支援センター」という相談窓口があることを知っていただきたい。

「がん相談支援センター」は、琉球大学医学部附属病院・沖縄県立中部病院・那覇市立病院・沖縄県立宮古病院の4つのがん診療連携拠点病院設置されており、がん診療連携支援病院として、北部地区医師会病院・沖縄県立八重山病院の2つの支援病院にも設置されている。これらの病院の中に、がん相談支援センターがあり、医療ソーシャルワーカー、看護師などががん専門の相談員として研修を受けたスタッフが、信頼できる情報に基づいて、がんの治療について、療養生活全般の質問及び相談をお受けしている。

医療ソーシャルワーカーとは、病院で働いているソーシャルワーカーのことで、主に治療のことや心の問題、治療などの経済的のやりくりの問題など、生活全般の幅広い問題について相談を受けたり一緒に考えたりして解決をしていく専門職である。医師に限られた診察の時間の中で聞けなかった、聞きそびれたことも、医療ソーシャルワーカーに相談してどんどん利用してほしい。医療ソーシャルワーカーは、がん診療連携拠点病院支援病院の6病院やがん専門病院以外の、がん相談支援センターの無い病院でも、医療相談室、地域連携室といった所でも、県内多数活動しているので活用してほしいと呼びかけられた。

がんの治療が始まると、高額療養費制度を活用される方が多いが、基本的には、医療機関や薬局で医療費の2割か3割の自己負担をされておられる。この自己負担額が一定の金額を超えた場合、超えた金額が払い戻しで給付される制度であるが、年齢や加入している健康保険、所得によって違いがある。また、窓口での一時的な自己負担額の準備が難しい場合には、「高額療養費限度額適用認定証」を取得して一時的な支払い額を抑えることができる。これらを当センターにご相談いただき、役場や各種保険窓口に申請等を行っていただくことになる。

患者さんだけでなく、そのご家族やご親戚、ご友人など患者さんを大切に思う方々へ、がん相談支援センターにおいでにならなくても、お電話でも、他の病院に通っていても本当に気軽に相談してほしい。相談は無料で、専門家と連携をはかりながら対応でき、相談内容が主治医に漏れたりすることもないので、安心して相談していただきたい。

がんについて知りたい時や勉強したい時、「がんになったら手に取るガイド」が書店で販売されており、地域の療養情報「おきなわがんサポートハンドブック 2015版」も、拠点病院、がん専門病院・その他の医療機

関・各市町村役場・学校・薬局・図書館・公共施設に置いてあるので、上手に活用してほしい。





## 平成 27 年度 第 2 回沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会議事要旨

【日 時】平成 27 年 7 月 28 日（火） 15：00～17：00

【場 所】琉球大学医学部附属病院 3 階 がんセンター

【参加者】 7 名：高橋 慶行（県立中部病院）、松野 和彦（那覇市立病院）、  
赤松 道成（北部地域医師会病院）、山本 孝夫（県立八重山病院）、  
大湾 盛治（患者の立場の者）、長井 裕（琉大病院産婦人科）、  
増田 昌人（琉大病院がんセンター）

【欠席者】 3 名：又吉美奈子（沖縄県教育庁）、奥平 忠寛（県立宮古病院）、  
高江洲 要（沖縄県保健医療政策課）

【陪席者】 3 名：朝倉 義崇（県立中部病院）、長野宏昭（県立中部病院）、  
井上 亜紀（琉大病院がんセンター）

新しく部会委員となった方を含め、部会に先立って、各自自己紹介を行った。

### 【報告事項】

#### 1. 平成 27 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会議事要旨

資料 1 に基づき、平成 27 年度第 1 回沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会議事要旨が承認された。

#### 2. 【施策 2】がん検診啓発ポスターコンテストについて

資料 2 に基づき、琉大事務方より、今年度も、第 5 回目のがん検診啓発ポスターデザインコンテストを実施するとの報告があった。6 月初旬にチラシや募集要項を各中学校高校へ送付し、9 月～10 月末日までを募集期間として、応募については、審査対象を A4 サイズ、縦書きのみとし、それ以外は対象外として受け付けないことが、全員一致で了承された。

選定方法や表彰についての確認があり、11 月の協議会を予備審査として、委員の皆さんにお好きなポスターを 3 つ(1 作品、各 1 点とする)選んでいただき、上位 3 作品程度を最終審査の候補として、第 3 回普及啓発部会の際の最終審査に加えることが承認された。部会において部会委員の協議により、最優秀賞・優秀賞・アイデア賞などを決定し、来年 2 月の協議会にて表彰式を行うことが了承された。

#### 3. 【施策 4】学校教育機関または PTA を媒体としたがん啓発活動について

##### ①養護教諭 5 年 10 年経験者研修 {平成 27 年 8 月 18 日(火)}

資料 3 に基づき、琉大事務方より報告があり、増田委員と琉大病院骨髄センター長の百名先生を講師として、「がんの総論」及び「小児がんについて」のテーマで、生活習慣病など学校保健の部分・児童生徒ががん患者の家族になった時・小児がん罹患している子の対応など、「おきなわ小児がん相談支援マニュアルの活用について」のテーマで琉大病院 MSW 石郷岡さんによる講演、の 3 本立てで講義を行う予定で、今年度は 5 年目 10 年目の経験のある養護教諭の先生方を対象とするとの周知があった。

#### 4. 【施策 7】がん征圧キャンペーンラジオ番組について

資料4に基づき、長井部会長より、ROK ラジオ沖縄に毎年ご協力いただいて今年で5回目となるがん征圧キャンペーンを行う予定であることが報告された。パーソナリティー玉城美香さんの「チャットステーションL」という特別番組に、医師のお立場としてお一人、沖縄県健康長寿課より課長様、相談支援部会からMSWの方をお一人、ゲスト出演いただく予定にしており、今回は、スポンサーの協賛によっては、琉球新報とのコレボとして、新聞への記事掲載も検討中であるとの周知があった。また、スポンサーの協力依頼があり、部会員の先生方に企業などを紹介いただきたいとのアナウンスがあった。

#### 5. 【施策8】 一般向け講演者リスト（人材バンク）について

資料5に基づき、事務方より、6月に講演者リストの調査票を拠点病院・支援病院へ送付済みで、現在回収中であるので、追ってリストを作成し協議会HPへアップする予定であるとの進捗報告があった。

増田委員より、リストの活用が全くなされていないのでどうしたらよいか、HPから削除した方がいいのではないかとの意見があった。長井部会長より、一般の方にやさしい表現や書き方をした方がよい、その他、各病院の各がん種で1名、各病院の連絡先や代表者を明記する、うちな〜がんネットがんじゅうも「沖縄、がん」で検索すると、一番目にヒットするが県民に知られていないので、ラジオ番組でも広報した方がよい、などの意見があった。

がんセンター井岡より、大阪がんええナビは、大阪のがん患者会の方々が立ち上げており、一般の方は見ないががんになった方が検索してよく見ている、他の拠点病院などからうちな〜がんネットがんじゅうにアクセスできるようにリンクを貼ってもらうなどの対策をしてはどうかとの意見があった。部会として、県内の拠点病院には、各病院HPからうちな〜がんネットがんじゅうにリンクを貼っていただけるよう、部会委員には、各病院の病院長へあるいは増田委員から各病院へ依頼することが了承された。

長井部会長より、HPの中でリストを出すこと、「〇〇病院では、がん全般（総論）の講演ができます。」「〇〇病院では、乳がんの講演ができます。」などの項目を作って「詳しくは〇〇にお問合せ下さい」とHPに掲載してはどうか、高橋部会長よりスマホなどのモバイルでも見られるように作りこんではどうか、中部病院朝倉先生よりポップアップで簡単なアンケートをして閲覧した方の調査をしてはどうか、ハンドブックの入手方法を明記しがん教育の一環として教育庁とタイアップしてはどうかなどの多くの意見が出され、今後も検討改善していくことで了承された。

#### 6. 【施策9】 専門的病院におけるがん種毎の担当医の公開について

資料6に基づき、事務方より、6月に講演者リストの調査票を拠点病院・支援病院へ送付済みで、現在回収中であるので、追ってリストを作成し協議会HPへアップする予定であるとの進捗報告があった。

#### 【協議事項】

##### 1. 中部病院主催「がんを知ろう！<仮>フェア」企画について

資料7に基づき、中部病院朝倉先生より、中部病院の主催で「がんを知ろう<仮>フェア」

の企画への協力依頼があり、11月7日(土)か11月14日(土)に、イオンモール沖縄ライカム 1F ホールにて予定しているとの周知があった。県民が、がんの予防、検診、治療に関する正しい知識を持つこと及びがん検診受診率の向上、がん患者及びその家族の不安や疑問の解消を目的にがんに関する情報の普及・啓発の為にイベントを行い、相談会・ミニ講演会・リンパドレナージュ・演奏会を予定しており、講師として、琉大病院・那覇市立病院の先生方にも数名協力をお願いしたいとの依頼があった。主催は中部病院で、琉大病院・那覇市立病院に共催を依頼することも了承された。その他、就労支援やピアサポーターの相談ブースを設けたり、スタンプラリー、体験コーナー、がんカルタなども検討してはどうかとの意見があり、中部病院で検討していただくことになった。

## 2. 中部病院の普及啓発部会の部会委員の増員(2名体制)について

中部病院の体制編成のため、今年度は中部病院の部会員としては、高橋副部長と長野先生の2名体制となり、次年度から、中部病院の部会委員として長野先生に参加いただくことが了承された。

## 3. 普及啓発部会に関する中間評価指標について

### ①「がんの教育・普及啓発」について

資料8に基づき、がんセンター井岡より、がん対策基本計画の中間評価について、普及啓発部会の分野における「がんの教育・普及啓発」の項目の中間評価の指標についての提案があり、部会案として、以下の【A:分野アウトカム】、及び【B:中間アウトカム】が了承された。

#### 【A:分野アウトカム】

1. 県民ががんに関する正しい知識を持ち、適切な判断、行動することができる。
2. 県民ががん医療に関する正しい知識を持ち、安心して安全で質の高い医療を受けるために、適切な判断、行動することができる。
3. 県民ががんの早期発見・早期治療に関する正しい知識を持ち、適切な判断、行動することができる。
4. 県民ががんの予防に関する正しい知識を持ち、適切な判断、行動することができる。

#### 【B:中間アウトカム】

○メディア、教育機関、各自治体、企業を通じて、県民ががんについての正しい情報を得られるような環境整備が整備されている。

客観的評価として、拠点病院の現況報告書の内容からピックアップする予定だが、普及啓発に関する内容がないので評価は行わない。また、主観的評価として、患者アンケート・医療者アンケートを行う予定であるが、中間評価の普及啓発部会の指標としての項目はないため行わない。

## 4. 次回、第3回 普及啓発部会 開催日について

第1候補日 : 11月24日(火)16:00～

第2候補日 : 12月15日(火)15:00～

第3候補日 : 12月1日(火)15:00～

